

平成27年度 峰 小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成 (1)健康でたくましい子【元気】(2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】(3)心豊かで、思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「地域に学ぶ学校づくり」

- (1) 児童を主役とする学校をめざす。
- (2) 児童の長所を引き出し、ほめて伸ばすことができるよう支援する。
- (3) 教育目標を実現するために具体的な重点活動を掲げ、学校・家庭・地域が協力して活動できるよう努める。
- (4) 小中一貫教育を生かした教育活動の充実を図る。
- (5) 重点活動の評価項目及び具体的目標値を設定することにより、目標の具現化を図る。
- (6) 適切な評価者に評価を依頼し、目標未達成時は組織的に改善策を講じることで具体的数値目標及び教育目標に迫る経営をめざす。（目標管理手法を駆使し PDCA の改善サイクルを回す。）
- (7) 学校経営の重点目標を学級・学年経営計画及び全職員の行動規準表に反映し、全職員が同じ価値観で組織的に取り組んで、具体的目標値を達成する。
- (8) 評価を意欲及び成果向上の道具（ツール）として生かす学校経営をめざす。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 子どもを生かす学校
 - ・指示待ちから自ら進んで行動できる児童の育成
 - ・基礎・基本を確実に身につけさせる子に応じたきめ細かな指導の工夫
 - 学習意欲を高める楽しく分かる授業の工夫
 - ・児童主役の場づくりを積極的に行い、児童の成長を実感できる活動の推進
- (2) 組織を生かす学校
 - 教育専門職としての資質と能力の向上を目指した校内研修の活性化
 - ・組織マネジメントの考えに基づき、全教職員が教育目標を分担することによる目標の達成
 - ・教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態の工夫
- (3) 地域を生かす学校
 - ・地域協議会を窓口として保護者や地域団体等の学校へのさらなる積極参画化
 - ・外部の学校評価などを活用し地域の人が学校へ来なくなる開かれた学校づくり
 - 地域活動等への積極的参加の奨励と相互理解

【陽東地域学校園教育ビジョン】

地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・最重点活動〔峰小 元気・やる気・思いやり活動〕
- ・全体で育てたい児童像…「自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる児童」
- 小中一貫教育フロンティア校として、システム構築に向けた実践の蓄積

【学 習 指 導】

- ・【やる気】「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動（スタンダード：学習面～基礎・基本を身に付け、進んで学習します）
- 基礎・基本の徹底学習活動
- 読書いっぱい活動

- ・「分かる授業」の展開～「分かる授業等実践研究」の推進

【道徳教育（児童生徒指導）】

- ・【思いやり】「心豊かで、思いやりのある子」の実現活動（スタンダード：生活面～ルールやマナーを守り、協力して生活します）

○心を込めたあいさつ徹底運動～各種団体と連携したあいさつ運動の実施

・「峰小よい子の一日」実践活動～ルールやマナーを守る態度の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

・【元気

（スタンダード：健康・体力面～元気に運動し、健康でたくましい心と体をつくります）

○健康・体力向上活動～元気チャレンジ活動の推進

・早ね・早起き・朝ごはん活動

○食事好き嫌い撃退作戦

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校行事や児童活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、 <u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u> ②一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。 ③学級活動やロング昼休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は94.2%で十分達成している。地域学校園での同一日あいさつ運動を実施し、全体朝会での児童主体のあいさつリーダーの活動や保護者と連携したあいさつ運動により、挨拶の機運に盛り上がりが見られた。 学級担任は、Q-Uテストや学校生活アンケートを活用し、一人一人の児童の声に耳を傾け、居がいのある学級づくりに努めた。 【次年度の方針】 引き続き、児童が主体的に活動する場を設定し、その取組を支援していく。また、児童同士、児童と教職員が共遊する時間を増やしていく。
	OA2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート「先生は大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①児童の実態を考慮した、創意工夫ある学年・学級経営を実践する。 ②全職員が学校経営に参画している意識を持ち、学習指導・児童指導等の課題を共有するとともに、同一歩調で指導に当たる。 ○③校内研修の活性化、一人一授業の実施等を通して、一人一人の教員の授業力向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は97.0%で十分達成している。問題行動に対する校内教育支援委員会、緊急時の速やかな対応会議など、共通理解の下全職員による指導体制で取り組んできた。また、授業力向上を目指し、校内研修や授業研究会を実施した。 【次年度の方針】 引き続き、情報や課題を共有し、全職員足並みをそろえて指導に当たる。一人一授業を効果的に実施し、教員の授業力向上を図る。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①「学習のきまり」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、学習訓練を徹底させる。 ②「峰小よい子の一日」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していくことにより、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ③「峰小よい子の一日」徹底運動を行い、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる	B	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・保護者・地域住民が90%を超え、児童が80%を超えていた。また、すべての肯定的回答割合が昨年度を上回っていた。 【次年度の方針】 「学習のきまり」や「峰小よい子の一日」徹底運動を継続して指導していく。さらに、教師間の情報交換を密に行い、組織的に児童指導を行う。

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間を持つ。 ②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答は95.7%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も昨年同様に、めあての明示・発問や板書の工夫・授業形態の工夫・終末の振り返りの時間の確保などを取り入れた授業を行っていく。また、一人一授業も継続して行っていく。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上（いじめ解消率 100%）	①いじめ防止強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。 ②アンケートや教育相談を実施し、望ましい人間関係づくりを醸成する。 ③いじめ対策を公表し、家庭・地域連携を図る。	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・児童が90%を超え、地域住民は100%であった。保護者は72.4%であり、昨年度とほぼ同様の結果であった。 【次年度の方針】 本年度同様「いじめ防止強化月間」「教育相談」を実施する。また、各学級にて道徳や学級活動などを利用して「絶対にいじめはいけない」という心情を育てる。HPや学年だよりを利用していじめに対する学校の取組み状況を保護者に周知していく。
A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①授業時間の確保に努め、前年度の反省や各行事の記録を生かしながら教育課程を実践する。 ②児童が主体となる活動の時間を確保し、内容の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.1%で十分に達成している。授業時間を確保するとともに、児童会主催の集会活動や各学年の音楽朝会など発表の機会を適切に配置し、児童の学校生活を充実させてきた。 【次年度の方針】 今年度の反省や記録を次年度に引き継ぐとともに、課題について話し合いや検討会を持ち、より適切な教育課程を編成、実施する。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	①授業参観、学校自由参観、親子活動、ボランティアの積極的な受け入れ等により、学校を保護者や地域に公開する機会を多く設ける。 ②学校だよりや学年だより、ホームページ等で積極的に学校の情報を発信、提供する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答96.3%、地域住民の肯定的回答100%で十分達成している。授業参観（祖父母への参観促進）、引き渡し訓練、学校自由参観、親子活動、感謝の会には、多くの保護者や地域住民が来校した。校内美化委員会（児童会）では、清掃ボランティアと連携して清掃に対する意識向上が図られた。 【次年度の方針】 引き続き、学校開放を推進していく。学校だより、学年だより、ホームページ等による定期的な情報・発信を行う。

教育活動の状況	A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①企業、「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動を各学年学期に1回以上実施する。 ②「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用し、学校運営の充実を図る。特に、学習支援ボランティアの活用を図る。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答95.2%で十分に達成している。年間を通して地域協議会学校支援ボランティアが様々な活動を行い、児童の健康促進、安全確保、学習環境づくりを強力に支援した。また、外部団体、宇都宮大学と連携・協力し、有益な研修会や効果的な授業実践を行った。 【次年度の方針】 引き続き、地域協議会と連携し、地域とともに歩む学校づくりを推進していく。
				【達成状況】 保護者・地域の肯定的回答は91%以上で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も望ましい学習環境を維持するために、学習指導部が中心となり、啓発を図る。 また、長期休業中を利用した特別教室や資料室の整備にも取り組んでいく。
				【達成状況】 保護者の肯定的回答91.5%で十分達成している。学校行事や校内掲示物、学年だより等への関連記事掲載・写真挿入で「元気・やる気・思いやり」を位置付け、意識化を図ってきた。 【次年度の方針】 行事や集会等で、さらに合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、保護者の理解が深まってきた。次年度も活動を継続し、よりよい校風づくりを推進する。
	A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 B1 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。 【数値目標】 全体アンケート「学校は、『元気・やる気・思いやり』の合言葉を意識して生活するよう指導している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的にロッカーや机の中を整頓させるなどして、学習にふさわしい環境を維持させる。 ②長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。 ①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。 ②学校便り・学年だよりに児童の活動の様子を掲載し、合言葉の周知を進める。	B	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・保護者・地域住民・児童ともに80%を超えていた。また、すべての肯定的回答割合が昨年度を上回っていた。 【次年度の方針】 年に2回のあいさつ運動を実施し、PTAや地域協議会と連携するだけでなく、陽東中学校園として、中学校の生徒会とも連携を取りながらあいさつへの気運を盛り上げる。
				【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・地域住民・児童ともに80%を超えていた。保護者は77%であったが昨年を上回っていた。 【次年度の方針】 教職員が範を示すとともに、日頃の学級経営などを通じて言葉づかいについて考える機会を設ける。
	OA10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上 A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	O①あいさつ運動月間を設定するとともに、PTAや地域協議会と連携したあいさつ運動を実施する。 O②教職員が率先してあいさつをする。 ③あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間を活用して指導する。 ①場に応じた言葉づかいについて、道徳や学級活動の時間、校外学習や学習ボランティア受け入れの機会等を利用して指導する。 ②日々の生活の中で教師が模範を示すとともに、特に目上の人への言葉づかいについて、機会をとらえて指導する。	B	

	B 6 児童は、自分の特徴や友達の良さに気づき、自他を尊重している。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、自分や友達の良さに気づき、自他を大切にしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上 OA12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」⇒教職員の肯定的回答 80%以上 OA13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童の肯定的回答 80%以上 健康・体力 B 2 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、検定カードなどをもとにめあてを決め、達成に向けて努力している」⇒児童の肯定的回答 80%以上 B 5 児童は、自分の歯に関心を持ち、食後丁寧に歯磨きをしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分は、食後ていねいに歯磨きをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①すべての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝えあったりする時間を設ける。 ②人権を尊重し、いじめを許さない態度や実践力を育てる道德の授業を、全学級、年1回は授業参観で実施する。 ③実態調査を、年に数回行うとともに、教育相談を行う。児童一人一人と向き合い、共感的理解を心がけるとともに、悩みを把握しその解決を支援する。 ①昼休みに共遊の時間を設けるなどして外遊びを奨励し、体を動かす楽しさを味わわせる。 ○②「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を数多く持たせる。 ○①家庭の意識を高めるために食育だよりを毎月1回発行するとともに、親子活動などで栄養士による食に関する学習会を行う。 ○②児童の栄養に対する意識を高めるため、栄養士と連携した授業や栄養指導を行う。 ○③ランチルームや各階廊下の食育コーナーを整備する。 ○①各種検定カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取組を支援する。 ②取組の様子を、「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。 ①歯と口の健康に関する意識を高めるために、養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童や歯磨き名人を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③保健委員会やボランティアを活用して、歯磨きの個別指導を実施する	【達成状況】 肯定的回答割合は、教職員・保護者・地域住民とも90%を超えている。 【次年度の方針】 全ての教育活動の中で、自己肯定感・自己有用感を育てる指導や交流等の場の設定をする。さらに、全職員による情報交換・学習情報システムなどを利用して、全校体制で自他を大切にする指導支援を強化する。 【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で達成している。業間や昼休みには、校庭で楽しそうに遊ぶ姿がみられる。放課後も、留守家庭児童会や放課後子ども教室、帰宅後に学校に集まって積極的に遊んでいる。 【次年度の方針】 来年度も継続して、外遊びの奨励を図っていく。 【達成状況】 児童の肯定的回答は81.0%、教職員・保護者の肯定的回答も昨年度と比較すると下がっている。 【次年度の方針】 食育だより等で良い面を保護者に発信し、給食への関心や取り組みに目を向けてもらうとともに、児童には時間の使い方やめあてなど振り返る時間を多く設定する。また、残菜が多いクラスには栄養士が授業に入ることも検討する。 【達成状況】 児童の肯定的回答は89.2%と概ね達成できているが、昨年度をややや下回っている。学校と家庭を往復できる検定カードを活用し、家庭の協力を得ることができている。 【次年度の方針】 引き続き児童にめあてをもたせ、取り組みを奨励していく。児童同士で教え合い高め合う機会を設けていきたい。特になわとび検定では、技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上をはたらきかけたい。 【達成状況】 児童の肯定的回答は93.7%で達成している。音楽に合わせて、落ち着いた雰囲気での歯磨きをしている。 【次年度の方針】 きらきらクラブの実施方法の検討し、児童一人一人の歯磨きのやり方の向上を目指していきたい。また、クラス一斉の歯磨きが乱れていることもあるので、クラス全員での歯磨きをさらに徹底していきたい。
--	---	--	--

学 習	○A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①「話し方のきまり」を掲示し、児童が発言したり話し合ったりする際の参考にさせる。 ○②授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設け、児童が多様な考えをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は87.9%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も昨年同様に、「話し方のきまり」を掲示したり、授業の中で児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設け、児童が多様な考え方をもち、主体的に学習に取り組めるようにしていく。
	○A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	○①授業の準備をしっかりとするとともにチャイムの合図を守り、落ち着いて充実した授業が展開できるようにする。 ○②「聞き方のきまり」「声のものさし」等を活用して授業態度を指導し、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は92.6%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も昨年同様に、授業の準備をしっかりとするとともにチャイムの合図を守り、落ち着いて授業が展開できるようにしていく。また、「聞き方のきまり」「声のものさし」の掲示も活用していく。
	○B7 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「自分の子どもは、家庭学習（宿題）をしている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	○①家庭学習時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。 ②家庭学習に対して適切な評価をするなど、児童の意欲を高める工夫をする。 ○③学年だより等で家庭学習の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は88%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度作成・配布した「家庭学習の手引き」をもとに、児童に家庭学習についての支援を行うとともに、保護者の家庭学習への協力を得られるようにする。
本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	○B3 児童は、読書の習慣がついている。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、楽しく読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○①週2回の読書タイムを確実に実施する。 ②読書ノート「みね読書人」改訂を受け、一層の活用を図る。 ○③「読書いっぱい活動」で、家庭読書の呼びかけを工夫する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は89.6%で、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も「読書タイム」の実施・「みね読書人」の活用・「読書いっぱい活動」などを継続し、読書の習慣の形成を目指していく。
	B4 学校は、異学年・異校種間の交流や保護者・地域の方との交流により学校生活に潤いをもたせ、「来なくなる学校づくり」を推進している。 【数値目標】 全体アンケート「自分は、異学年の友達や地域の方々と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童会活動や学校行事等において、縦割り班での活動積極的に取り入れる。 ②授業や委員会、クラブ活動などに外部人材を積極的に活用し、内容を充実させるとともに、児童とのふれあいの機会を持たせる。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.5%で十分達成している。「なかよしタイム」「なかよし給食」「縦割り班清掃」での異学年交流により望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。「おやじの会」や地域人材を授業等に招聘し、充実した授業を実践した。 【次年度の方針】 縦割り班での活動を継続し、卒業生や外部人材との交流の機会を確保するなど、「来なくなる学校づくり」を推進していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全市の共通項目 15、本校独自項目 7、合わせて 22 の評価指標を、今年度は全て達成していた。

「学校運営」に関わる内容項目においても、全て 90%以上の高い肯定的回答が得られた。中でも、A1「学校の雰囲気」A2「教職員の指導」A7「情報の発信」A8「家庭・地域・企業との連携」については、肯定的割合が高く、94～97%であった。この結果から、地域協議会と連携した学校教育支援ボランティアの活用により、陽東地域学校園教育ビジョンである「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通し、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」また、本校の学校経営の理念である「地域に学ぶ学校づくり」が明るく活気のある雰囲気のもとで、教職員の指導力を生かしながら、着実に推進されていることができる。

以下は本校の最重点活動である【峰小 元気・やるき・思いやり活動】の視点から考察をする。

「児童指導」【思いやり】においては、A3「規則の遵守」・A5「いじめ対策」・A10「あいさつ」・A11「言葉づかい」B6「自他の尊重」について、全て昨年度より肯定的回答が上回っている。特に、「規則の遵守」と「言葉づかい」については、昨年度、評価指標に達成できなかった項目であるが、今年度は、児童と教職員の肯定的回答が大きく上回り、評価指標に到達することができた。今年度の課題として、教職員が組織的・継続的に児童指導に取り組んできた成果と言える。そのため、児童は、落ち着いた学校生活を送ることができた。

いじめ対策については、昨年度と同様、児童・教職員・地域住民の3者の肯定的回答は90%以上であるが、保護者の肯定的回答が低い傾向にある。今後も、保護者理解を得るとともに、教職員自身が危機意識を持って範を示しながら、「その時、その場で、その人が」指導することを徹底したい。

「健康・体育」【元気】においては、A12「運動する習慣」の児童の肯定的回答が、昨年度より11.7%も上回った。これは、休み時間に外に出て、体を動かして遊ぶ児童や、放課後子ども教室・留守家庭児童会で遊ぶ児童が多くなったこと、さらに、担任が児童と向き合う時間を確保し、共に遊ぶようになったためと思われる。しかし、A13「食の好き嫌い」については、評価指標は上回っているものの、昨年度より12.8%下回ってしまった。次年度は、児童一人一人の食生活を振り返り、望ましい食習慣を見に付けることができるように、家庭と連携しながら食育の充実に努めたい。

「学習指導」【やる気】においては、昨年度と比較して肯定的回答が上回ったのは、A15「落ち着いて学習」B3「読書の習慣」B7「家庭学習の習慣」で、下回ったのは、A9「学習しやすい環境」A14「積極的に学習」であった。児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。読書指導の工夫や「家庭学習の手引き」等の活用により、読書や家庭学習の習慣も、昨年度より身に付いてきている。次年度は、学習指導部が中心となって、児童が、望ましい学習環境のもとで、友達と楽しくコミュニケーションをとりながら、主体的に学習に取り組めるよう、環境整備や指導・支援の充実に努め、教師の授業力向上を図りたい。

今後も積極的な情報の発信に努め、地域・保護者の協力を仰ぎながら全職員協力して学校運営・改善に当たっていききたい。

6 学校関係者評価

・「地域安全部会」では、峰地区防犯会からスクールガードチーフアドバイザー会議に参加した。児童自らが危険を予測し、回避する能力を育成するためには、学校や地域の実情に応じた長期的に持続可能なスクールガード体制を構築することが大切である。本校や本地域においては、峰スクールガードサミットや一斉下校指導への参加協力をしたり、運動会や文化祭等の各種行事において巡回や警備をしたりしている。今後も、防犯会活動に参加できる人を増やして、子どもの安全確保に関わる活動をさらに充実させていきたい。

・「地域活動支援部会」では、球技大会や宿泊訓練、サイクリングやアウトドアトレッキング、体育祭等季節ごとに児童が楽しく参加できるように、各種行事を計画・実施した。また、行事の前には、子どもを危険から未然に防ぐために「危険予知トレーニング」を行った。本校の学校経営の方針の一つである「地域活動等への積極的参加の奨励と相互理解」をさらに推進するために、今後も青少年育成会の活動を通して地域のなかで子どもを育てていきたい。

・「学校支援部会」では、今年度も、学習支援や環境整備等様々な活動ができた。校庭見守りは参加しやすく児童の安全確保に効果があった。また、今年度は、清掃において企業からの支援も受けることができた。学校と家庭・地域・企業との連携・協力に関するアンケートの結果においては、児童・保護者・教職員・地域住民の4者の肯定的回答は90%以上であった。次年度も、学校支援ボランティアの活動をさらに活性化していけるように努め、『地域に学ぶ学校づくり』推進のために協力していきたい。

・学校に求められていることが増えてきていると思う。学童保育でも連携を大切にしたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者の皆様からは本校児童、教職員が認められ、温かく見守られていることが理解できた。今年度の評価をもとに、一人一人の児童がより充実した学校生活を送れるよう、個を生かす学年・学級づくり、分かりやすい授業づくりに引き続き努めていきたい。また、学校の様子を保護者・地域に発信したり学校公開を進めたりして学校や児童の様子を理解していただくとともに、学習支援ボランティアとして学校に関わっていただく機会を増やし、地域ぐるみで児童を育てていこうとする気運をより一層高めていきたい。

今年度明確になった成果と課題を踏まえて、次年度も、学校運営の最重点活動である〔峰小 元気・やる気・思いやり活動〕を全校体制で推進していきたい。

【元気】

・「健康でたくましい子」の実現活動として、「健康・体力向上活動」「早ね・早起き・朝ごはん活動」「食事好き嫌い撃退作戦」を推進していく。特に、児童に望ましい食習慣を身に付けられるよう、食育に関する学校の取組みについて、適宜、発信しながら家庭と連携して継続的に取り組む。

【やる気】

・「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動として、「基礎基本の徹底学習活動」「分かる授業」「読書いっぱい活動」の展開に努める。授業中には、話合いの場を意図的に設定し、受容的な雰囲気の中で思いや考えを伝え合う活動を積み重ねていくことにより、コミュニケーション能力の育成を図る。

【思いやり】

・「心豊かで思いやりのある子」の実現活動として、陽東地域学校園やＰＴＡと連携した「心をこめたあいさつ徹底運動」や「峰小よい子の一日」実践活動、さらに陽東地域学校園で共通して取り組む「ほめる教育」を推進することにより、基本的な生活習慣やルールやマナーを守る態度や自他を大切にする心情の育成を図る。